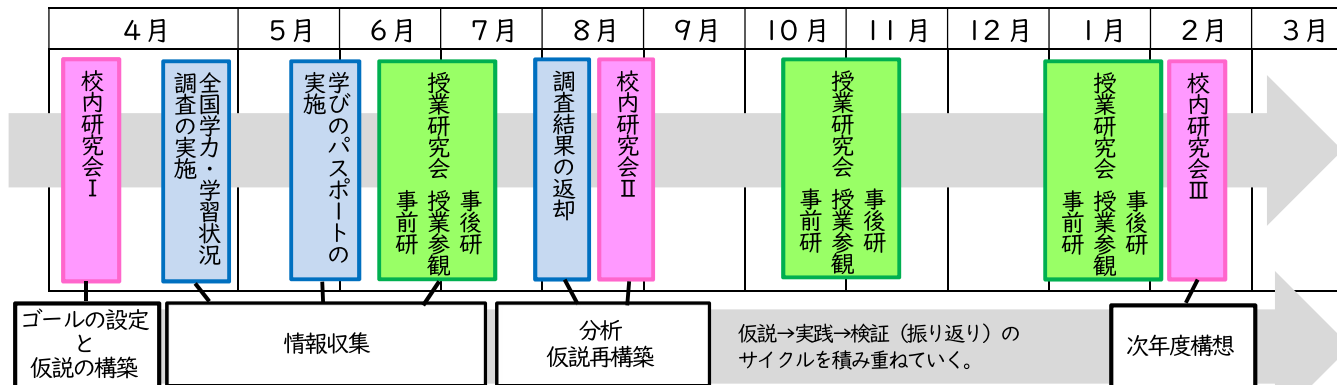


学力調査等の結果分析を授業改善に生かす

京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の結果分析を基にした授業研究会

令和5年度から、「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」(以下「学びのパスポート」)が始まりました。各校では、散布図や個人カルテを基に結果分析を行い、活用方法を模索しながら、一人一人の児童生徒に着目して支援につなげていただいています。今回は、調査の結果分析を校内研究会や授業研究会等に取り入れ、授業改善につなげる取組の一例を紹介します。

1年間の流れ(例)



【校内研究会Ⅰ】 中学校区・校内で1年間の研究の方向性を共有する。

- ・ 前年度の学校改善プランに基づき、本年度の学校改善プラン1～3を提案し、1年間の研究の方向性を共有する。
- ・ 仮説に基づいて、考えた具体的な取組を実践していくことを確認する。

【校内研究会Ⅱ】 学力調査等の結果分析を行う。

- ・ 「全国学力・学習状況調査」と「学びのパスポート」について、結果分析を行う。
- ・ 「学びのパスポート」については、学校改善プランの4～8において、調査結果と普段の見取りに基づき、2学期以降の具体的な取組を考える。また、授業研究会を通して、取組の検証を行い、授業改善につなげる。



結果分析について協議したことを、授業参観の視点に位置付けることで、単元の目標や本時の目標の達成のために、どんな支援を行うのか明確になってきます。

【校内研究会Ⅲ】 実践を振り返り、次年度の方角性を検討する。

1年間の成果を振り返り、次年度の方角性について協議を行い、学校改善プラン9、10に記録を残し、次年度につなげる。

「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン

学校名	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	校長名	校長印	氏名
学級数											

① 目指す子ども像

② 目指す子ども像に対する現状と課題

③ 目指す子ども像に達するための取組

④ 具体的な取組内容

⑤ 仮説及び成果を検証するための質問項目

学年	質問項目	質問項目	概念	備考

⑥ 分析1

学年	概念	散布図から読み取れること	普段の様子を踏まえての分析

⑦ 分析2

学年	項目	散布図以外から読み取れること	普段の様子を踏まえての分析

⑧ 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て

⑨ 具体的な取組内容の修正

⑩ 児童生徒の姿(普段の様子から)

⑪ 次年度の構想

【授業研究会】学校で重点に定めた概念や質問項目に着目し、手立てや意図、授業参観の視点を明確にして研究することで、授業改善につなげる。

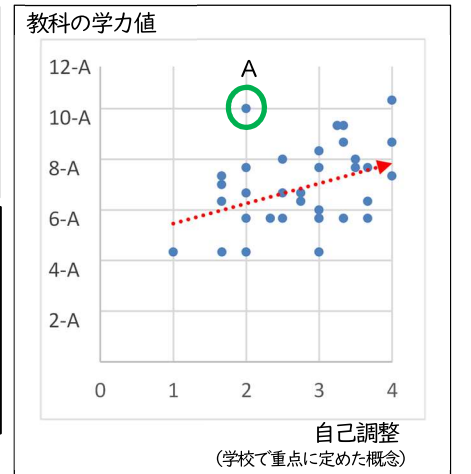
事前研究会

- ① 単元構想や本時の展開の検討と共に、普段の授業での様子や調査結果を基に、児童生徒の状況を考察する。
- ② 教師がペアやグループをつくり、授業を参観する際に着目する児童生徒を決め、参観の視点を明確にする。



学力値は高いけれど、自己調整の質問項目に否定的に回答しているAさんに着目してみよう。自己調整の質問項目の回答状況を見てみると、「自分の考えた道筋をほかの人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ。」という質問に否定的に回答していた。Aさんのグループは、いつも活発に話合いをしているので、Aさんも他の人の意見を聞いて、考えを深めていると思っていた。だから、課題の設定は適切か、話合いの様子はどうか等に着目して観察してみよう。

着目する児童生徒を決めて、参観の視点を明確にすることで、単元や1時間の目標を達成するための支援を考える。



※1学期の授業研究会では前年度の結果分析を生かすことができます。

授業参観

事前研究会で立てた参観の視点(ここでは、課題の設定や話合いの様子等)に沿って、着目した児童生徒の学びの様子を観察する。



Aさんは、他の人の話を聞いて、どのような反応をしているだろうか。また、振り返りには、どんなことを書いているか観察しよう。



Aさんは、他の人の考えを聞いて、どんな質問をしているか観察しよう。

多様な考えを引き出すために課題を工夫したけれど、Aさんにとって、他の人の考えを聞いて、自分の考えを深めたり、見直したりする機会になっているか、観察してみよう。

着目した児童生徒の様子を具体的に記録して、事後研究会での協議に生かす。

事後研究会

着目した児童生徒の学びの様子を出し合い、具体的な支援を考え、実践につなげる。

Aさんは、ほかの人の話を聞いて、質問をしている様子は見られなかったが、振り返りには、「他の人の考えも聞けてよかった。」と書いていた。でも、どんなところがよかったのかはよくわからなかった。具体的に振り返りの視点を示して考えさせることで、自分の考えを見つめ直すことにつながるのではないだろうか。



具体的な支援

- ・ 課題を提示する際には、考えを広げたり、深めたりすることができるように、考えるための視点を示す。
- ・ 振り返りでは、他の人と自分の考えを比べて、気付いたことや考えが深まったことを具体的に書くように指導する。

ここでは、Aさんに着目して具体的な支援の例を示しましたが、個に応じた支援は集団への支援にもなります。具体的に考えた支援を学校全体で共有し、どの授業でも継続して取り組み、取り組んだことを検証して改善を繰り返すことが、児童生徒の変容につながります。調査結果のデータと教員の見取りを両輪として、児童生徒が分かる喜びとともに、学ぶ楽しさや学ぶ意義を実感できる授業を創出し、児童生徒一人一人の可能性を最大限に引き出していけるように、結果分析を授業改善に生かしていきましょう。